

報道関係 各位

2018年4月27日
株式会社日本レースプロモーション

5月12日(土)～13日(日)
「AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2018」
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、5月12日(土)～13日(日)の2日間、大分県日田市 オートポリスインターナショナルレーシングコース(1周:4.674km)において、「AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2018」2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 54周(252.396km)にて争われます。
オートポリスは、中高速系コーナーが多くアップダウンの激しいテクニカルなコースで、ドライバーにとって攻めがいがあると言われているのと同時に、タイヤに厳しいサーキットです。この厳しさが、今シーズンより導入されている「2 スペックタイヤ制」におけるソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使い方、燃料の搭載量や給油のタイミングなど、レース戦略をより複雑化させます。また、シーズン唯一の右回りコースのため、馴れない左側給油を強いられるなどピットワークにも正確性とチーム力が問われます。

開幕戦をポール・トゥ・ウインで完勝した山本 尚貴(チーム・ムゲン)、14番手スタートから2位まで順位を上げた関口 雄飛(イトウチュウ エネクス チーム インパル)、一時順位を落としたながらも3位に戻した野尻 智紀(ドコモチームダンディライアンレーシング)らの2戦目の走りと共に、惜しくも表彰台に届かなかった昨年のチャンピオン石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)にも注目が集まります。また、デビュー戦を下位で終えた松下 信治(ドコモチームダンディライアンレーシング)や千代 勝正(ビーマックスレーシング・チーム)らの戦い方にも注目です。

なお、第2戦オートポリス大会は、ピエトロ・フィッティパルディ(ウオモ スノコ チーム ルマン)と福住 仁嶺(チーム・ムゲン)の2名が欠場します。この欠場に伴い、フィッティパルディに代わり、トム・ディルマン(Tom Dillmann) (注1)が、福住に代わり、阪口晴南(さかぐち せな) (注2)が出場します。この2人のスーパーフォーミュラでの初走行も見どころです。

注1:トム・ディルマン(Tom Dillmann) ウオモ スノコ チーム ルマン

1989年フランス生まれの29歳。ユーロF3やGP2シリーズに参戦し、2016年のFormula V8 3.5シリーズではシリーズチャンピオンを獲得。その後Formula Eへのスポット参戦や、ブランパン GTなどで活躍している。

注2:阪口晴南(さかぐち せな) チーム・ムゲン

1999年大阪府出身の18歳。Honda 育成ドライバーとして昨シーズンと今季は全日本フォーミュラ3選手権に出場している。



ポール・トゥ・ウインの完勝で全日本スーパーフォーミュラ選手権 開幕戦を制した山本尚貴(チーム・ムゲン)

公式予選

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:4.674km (右回り) × 54周 = 252.396km

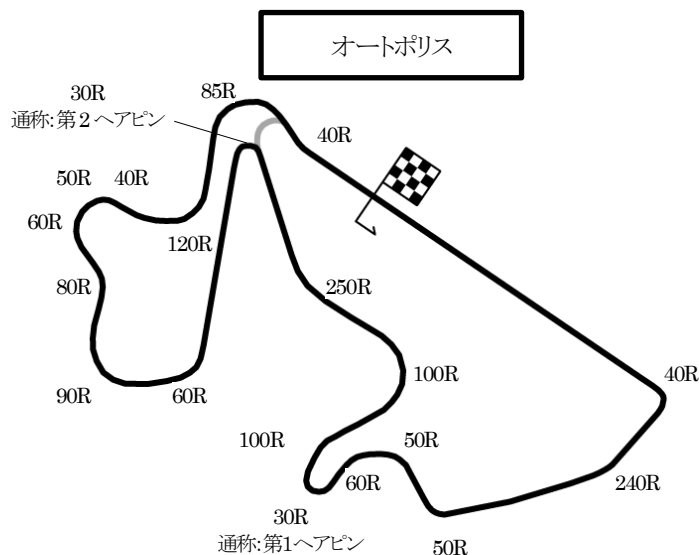
※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

オートポリスについて

阿蘇外輪山の雄大な地形を生かした、全長 4.674km の長さを誇る国際公認コース。

ホームストレート902m、高低差52メートル、最大上り勾配7.2%、下り勾配10%のアップダウンの激しいテクニカルコースで、中高速系のコーナーが多いテクニカルなコースです。

また、日本では珍しく、ピットロードがコースの外側にあり、ピットから見るとマシンの走行方向が他のサーキットと逆になります。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 エントリーリスト

2018年4月27日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	1999/ 7/ 9	日本/大阪府	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテルイン チームトムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台
(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22 SUZUKA Rd.1	2018/5/12-13 AUTOPOLIS Rd.2	2018/5/26-27 SUGO Rd.3	2018/7/7-8 FUJI Rd.4	2018/8/18-19 MOTEGI Rd.5	2018/9/8-9 OKAYAMA Rd.6	2018/10/27-28 SUZUKA Rd.7
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	11	11	0	0	0	0	0	0
2	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	8	8	0	0	0	0	0	0
3	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	6	6	0	0	0	0	0	0
4	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	5	5	0	0	0	0	0	0
5	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
6	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
7	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	2	2	0	0	0	0	0	0
8	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1	1	0	0	0	0	0	0
9	4	山下 健太 Kenta Yamashita	0	0	0	0	0	0	0	0
10	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	0	0	0	0	0	0	0	0
11	37	J-ロシター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
12	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	0	0	0	0	0	0	0	0
13	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	0	0	0	0	0	0	0	0
14	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
15	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	0	0	0	0	0	0	0	0
16	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
17	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選ポールポジション

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22 SUZUKA Rd.1	2018/5/12-13 AUTOPOLIS Rd.2	2018/5/26-27 SUGO Rd.3	2018/7/7-8 FUJI Rd.4	2018/8/18-19 MOTEGI Rd.5	2018/9/8-9 OKAYAMA Rd.6	2018/10/27-28 SUZUKA Rd.7
1	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	10	10	0	0	0	0	0	0
2	19 20	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL (イトチュウエネクス チーム インバル)	8	8	0	0	0	0	0	0
3	5 6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライオンレーシング)	6	6	0	0	0	0	0	0
4	1 2	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモインギング)	5	5	0	0	0	0	0	0
5	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティエシーエス・ナカジマレーシング)	4	4	0	0	0	0	0	0
6	17	REAL RACING (リアルレーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
7	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	2	2	0	0	0	0	0	0
8	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	1	1	0	0	0	0	0	0
	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコ チーム ルマ)	0	0	0	0	0	0	0	0
	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	0	0	0	0	0	0	0	0
	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム（エントリー）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントリー）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

－開催概要－

- 大会名称 : AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2018
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦
- 開催日程 : 2018年5月12日(土) 公式予選
2018年5月13日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : オートポリス インターナショナル レーシングコース(1周 4.674km/ 右回り)
- オーガナイザー : オートポリス倶楽部
株式会社オートポリス
- 公 認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認 定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後 援 : スポーツ庁/観光庁/大分県/熊本県/日田市/竹田市/菊池市/阿蘇市/柳川市/大津町/小国町/
南小国町/産山村/日田市教育委員会/竹田市教育委員会/菊池市教育委員会/阿蘇市教育委員会/
柳川市教育委員会/大津町教育委員会/小国町教育委員会/南小国町教育委員会/
産山村教育委員会/日田市観光協会/竹田市観光ツーリズム協会/菊池観光協会/阿蘇市観光協会/
柳川市観光協会/肥後おおづ観光協会/小国ツーリズム協会/杖立温泉観光旅館協同組合/
南小国町観光協会/産山村観光協会
- 協 力 : 株式会社ブライト
株式会社テレビ熊本(TKU)
阿蘇市
大分県
- 同日開催 : 2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦 JSB1000
2018 MFJ CUP JP250 第2戦
2018 N-ONE OWNER'S CUP Rd.5

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第2戦 オートポリス』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がレポートします。今大会は、解説者にモータージャーナリストの古賀敬介を迎え、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○実況 : ピエール北川

○解説 : 古賀敬介(モータージャーナリスト)

○ピットリポーター : 松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間 : 2018年5月13日(日) 14:00~15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメントーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメントーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第2話 : 2018年 5月 5日(土) 23:00~23:55

2018年 5月 13日(日) 26:00~26:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

第2戦 オートポリス

予選 2018年 5月12日(土) 15:40~(予定) J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2018年 5月13日(日) 13:40~(予定) J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<http://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)
大人 : 4,860 円
※お車でご来場の場合は、別途駐車券が必要です。
- スーパー・プレミアム観戦券 ROYAL ROOM EAST WING
大人1名:32,400 円
小中学生:10,800 円
※駐車券込(大人券のみ)
※パドック / ピットウォーク入場可能 / 土日のお弁当 / 公式プログラム(大人券のみ) / 決勝グリッド入場(JSB1000、SF、N-ONE 決勝)
- 前売1日駐車券(四輪普通車)
864 円
※いずれか1日のみ有効
- 前売2日間通し駐車券(四輪普通車)
1,620 円
- 前売ピットウォーク参加券(2日間)
3,240 円

●前売Aパドックエリア券

5,400 円

※パドック券のみではピットウォークには参加できません。

●前売パドック・ピットウォーク券 (2日間)

8,100 円(各日)/3歳~小学生:無料

●エコ観戦券 ロイヤルルーム west wing (2日間)

3,240 円

※販売定数に達し次第終了

詳しくは、レースチケットのご案内 (<https://autopolis.jp/ap/watch/super-2and4/s2and4-ticket/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル
e-mail: media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※

※：レース距離は暫定。

2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。